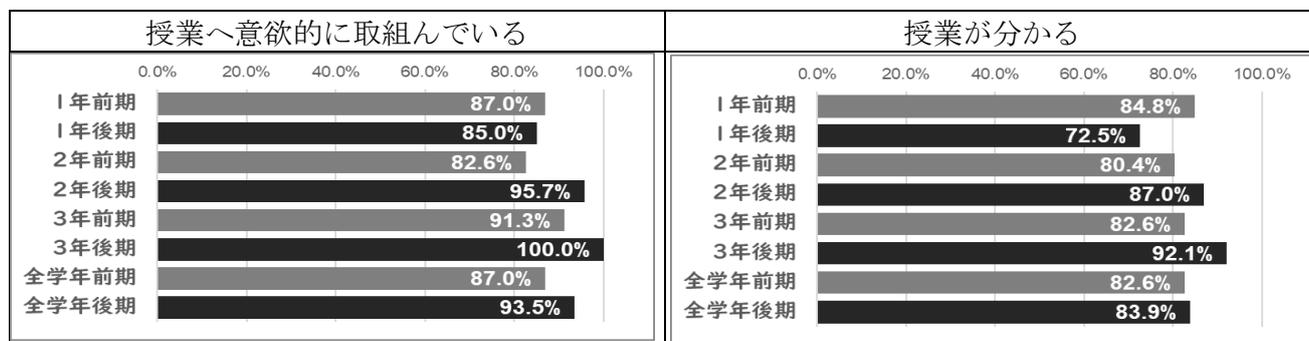


学の道

令和8年1月23日
富士市立富士川第一中学校
学校だより 第12号

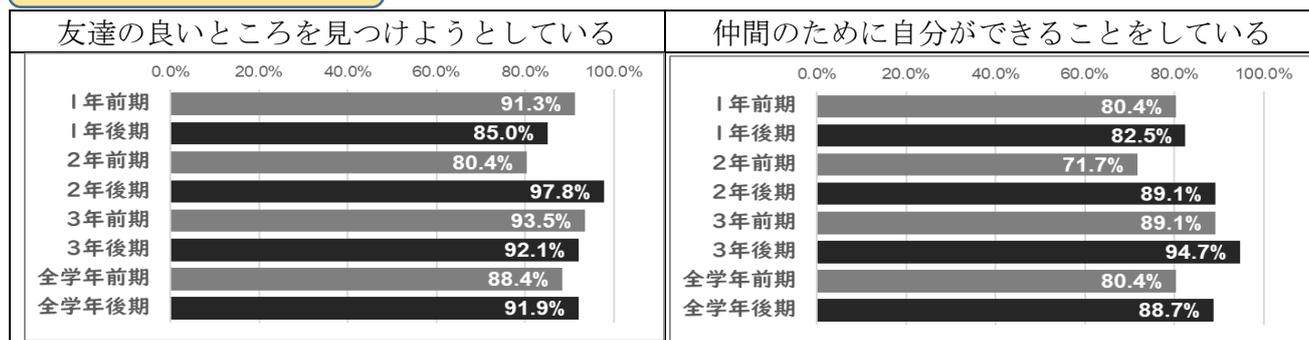
令和7年度の生徒の後期学校評価の結果（一部抜粋）がまとまりました。学校だより第7号でお知らせした前期学校評価と、今回の結果を比較して掲載します。

1 授業づくり



後期は、どの学年も学習内容の難易度が高くなりましたが、「授業へ意欲的に取り組んでいる」項目は、全体的に6.5ポイント向上しました。3年生は受験に向け、全員が学習に集中しています。また、「授業が分かる」項目について、3年生は92.1%で、前期と比較すると9.5%も向上しました。分からないことはそのままにせず、復習や練習を積み重ねていることが要因だと考えられます。2年生も授業や学習の仕方が定着し、内容が身に付いてきます。今後も、改めて授業のルールを確認することや、復習・練習の時間を確保するなど、個々が努力を重ねられるよう支援をしていきます。1年生は、授業内容が分からなくなってきた生徒が増えてきたようです。授業での課題を明確にし、対話を通して考えること、自分の考えをキーワードとなる語句について、自分の言葉でまとめるなどの具体的な学習の仕方が定着できるよう支援をしていきます。

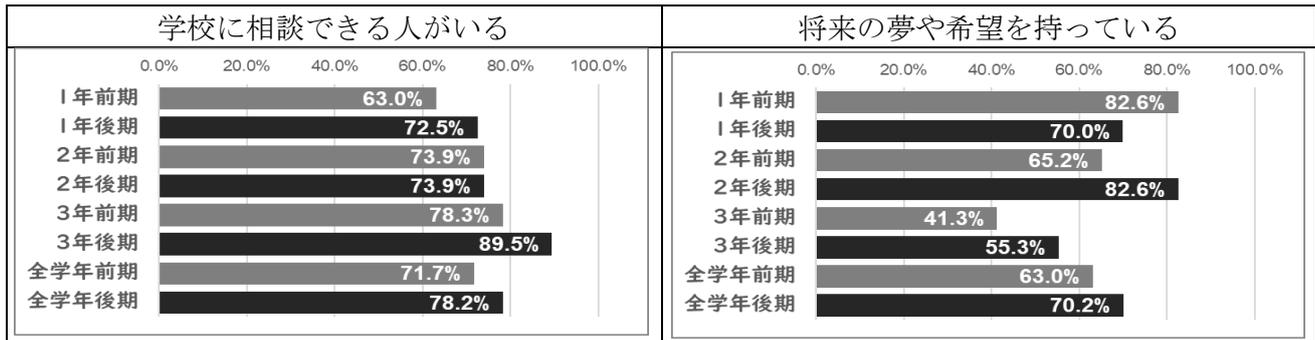
2 仲間づくり



後期には、仲間同士や教師、地域の方や保護者の皆様と関わる活動が多くありました。地域活動へのボランティア参加や地域防災への参加を通して、生徒たちの奉仕の心が育ってきました。

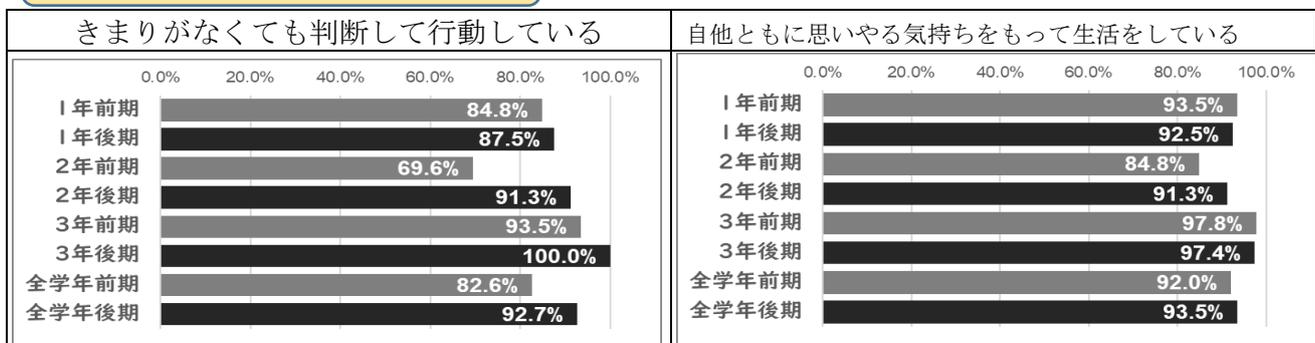
生徒たちはそれぞれの活動で仲間と関わり、協力することで達成感が味わえたようです。『仲間のために自分ができることをしている』の項目については生徒の意識が高く、人間関係が落ち着いてきました。しかし、1年生は、新たな仲間づくりを学んでいる段階であり、人間関係がうまくいかず、困り感を抱えている生徒が多くいます。休み時間やそれぞれの活動の様子を見てみると、生徒同士で楽しそうに過ごしている一方で、行き過ぎた関わり方や自分が優位になるための言動が見られることもあります。相手を思いやる心は、どの生徒も持っているので、関わり方を一つ一つ丁寧に学ばせ、特定の人や行動を決めつけることなく、その時の立場や場をよく考えた関わり方ができるように支援をしていきます。

3 心と体の健康づくり



「人間関係がうまくいっている」項目は、全体で92.7%でした。生徒たちは、小学校から同じ仲間と過ごしています。また、これまでの成長と共に、目的や考え方を変えながら過ごしています。本校は、一つの小学校からそのまま中学校へ進学する生徒が多いため、仲間の見方が変わらないというデメリットがあります。しかし、互いのよさを生かしながら過ごすこともできます。これまで、生徒同士でのトラブルがあった際には、教職員が関わり、不安を解消できるように努めてきました。今後も、2か月に1度のメンタルセルフチェックや教育相談を通して、生徒の困り感を早くつかめるよう、努めて参ります。生徒の中には、「相談すると迷惑になるから」「心配をかけたくないから」「大きなことにしたくない」等と思い、大人に相談しないこともあります。生徒の立場に立ってしっかり考え、よりよい人間関係が築けるよう支援していきます。生徒同士のトラブルで、お子様が悩んでいる姿を見られましたら、学校へ御相談ください。「将来の夢や希望を持っている」項目は全体で70.2%と前期より向上していますが、今後も継続して具体的にになりたい自分を想像する取り組みをしていきます。

4 安心・安全な学校

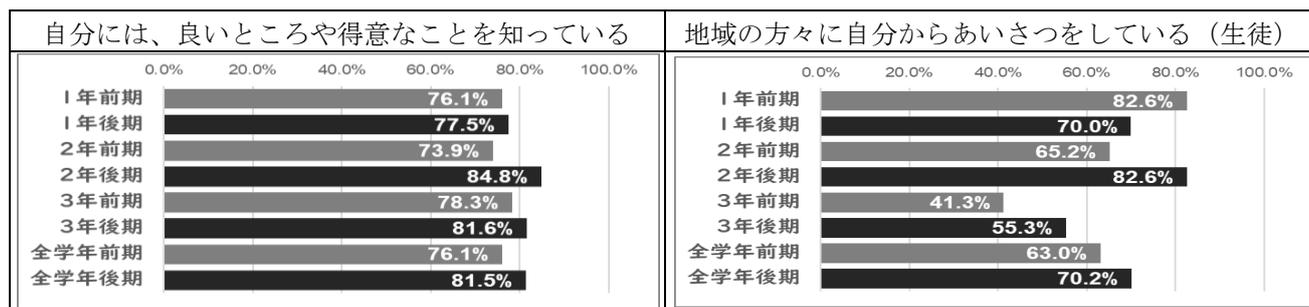


「自他ともに思いやる気持ちをもって生活している」項目は93.5%でした。本校の生徒は、誰もがどの子も思いやる心をもってしています。思いやりの形は様々ですが、学校という場で、誰に対しても思いやる行動ができることは、社会に立った時に生かせると思います。今後も生徒たちの良さを生かし、人として成長できるよう、支援していきます。

「きまりがなくとも判断して行動している」項目は全体で92.7%でした。現在は、何のためにきまりがあるのか、なぜ、このきまりをなくせないのか等、生徒会を通して議論は続いています。また、3年生は規範意識が高く、この項目は100%でした。受験に向けて不安な気持ちを抱えながらも、仲間のことを考えた行動ができ、学校の模範となっています。1・2年生にとっては、自分の行動を制限することや、感情的な行動は避け、落ち着いた行動が求められます。富士川地区の良い伝統が継承できるよう、残りの2か月を過ごしてほしいです。

今後も誰もが安心して過ごせるよう、自分の行動の仕方や意識の持ち方を振り返る機会を設け、より良い学校づくりを進めていきます。

5 自分のこと



自己肯定感が低い傾向にあることが、本校の課題の1つです。過去3年間で「自分には良いところや得意なことを知っている」項目が81.5%となりました。これは、保護者や地域の方々の見守り、温かな声掛けのお陰だと思っております。また、学校教育目標は「つなぐ」です。様々な人や物事、出来事につながるよう、総合的な学習の時間を縦割りで実施することや、生徒の成功体験の見届けや励ましを繰り返し、どの学年でも支援をしてきました。反社会的なこと、身勝手なこと等については、正しいことを教える必要がありますが、今後も生徒の率直な考えや思いを否定せず、共に考えられる教職員集団として支援をしていきたいと思えます。

学校と保護者や地域をつなぎ、安心・安全な学校を目指し、誰もが幸せになれる（ウェルビーイング）学校づくりに努めて参りたいと思えます。

来年度に向けて

アンケートや調査などへの御協力をありがとうございました。生徒や保護者の皆様、教職員のアンケートの結果から、来年度に向けて学校運営やそれぞれの課題解決に向けて検討しています。

生徒たち一人一人の笑顔と希望が未来を創り、あなたも、わたしも大切にできる学校を目指したいと考えています。保護者の皆様におかれましては、今後も生徒のより良い成長のため、温かな見守りや、励ましの声掛けをお願いいたします。

今後も保護者の皆様と地域と学校がつながり、一丸となって生徒の成長を喜べる地域となるよう教職員一同、全力で支援をしていきます。